

東山中学校区の取組

1 東山中学校区におけるめざす子ども像

確かな学力と豊かな心をもった子ども
～自分の考えを伝え、互いに高め合おうとする子ども～

2 東山中学校区における小中一貫の実施体制

(1) 推進組織

校区の連絡推進協議会に13の部会を設け、小中一貫の取組を推進した

- 校区校長会 ○教務主任(学部主事) ○校内研究担当者 ○特別支援教育担当者
- 人権教育主任 ○養護教諭 ○生徒指導担当者 ○事務担当者 ○特別支援学級交流会
- 保健体育科担当者 ○音楽科担当者 ○理科教育推進者 ○英語外国語担当者

(2) 年間計画

「学力向上」「心の教育・生徒指導」「健康教育」「特別支援教育」の4分野について、各部会毎に校区の目指す子ども像や校区の課題を基に取り組みの内容を検討し、具体的な取組を実施した。

- ・4月に全員協議会を開催し、昨年度までの取組状況と課題を確認した上で、具体的な取組を協議
- ・年間12回の校区連携の日を設定し、各部会毎に年間計画に基づいた取組について随時協議
- ・3月に全員協議会を開催し、その年度の取組について検証しながら成果と課題について協議

3 小中一貫教育の4年間の取組

それぞれの年度に新たに始めた小中一貫の取組内容

平成25年度の取組

【学力向上分野】

- 学習規律・家庭学習の定着
 - ・次の時間の準備をしてから休憩することの徹底
 - ・チャイム席の徹底
- 少人数学級を活かす学びと指導の創造事業
 - ・活用する力を育て、学習意欲を高める学習指導の創造

平成26年度の取組

【学力向上分野】

- 小学校教員が夏季休業中の中学校での補充学習に指導者として参加
- 小中の学びをつなぐために、小学校を卒業した6年生に春休みの学習プリントを中学校教員が作成
- 学習規律・家庭学習の定着
 - ・リーフレットを活用した家庭学習の定着
 - ・学習時における4人以下グループの活用



夏季休業中に中学校で実施される学年別の補習に小学校の教員が支援に入る。指導する中で小学校における学習の中でどこで躓いているのかを把握し、小学校での指導に反映させている。また、小学生の時に担任してもらったなど見知った先生からの指導は生徒にとって受け入れやすい利点もある。

【心の教育・生徒指導分野】

- 「合唱」に取り組み、心の教育・仲間づくりを進めていく
～歌が心を繋ぎ、仲間が繋がっていくことができる～
 - ・校区共通の合唱曲を選定し、校区の小・中・特別支援学校で合唱することの推進
 - ・中学校音楽担当が小学校で合唱、合奏指導を実施
- 集会で整列するときは、横列のつま先を揃えて整列することの徹底

【健康教育分野】

- 校区の子どもたちの課題である「ボール投げ」の能力向上に向けた取組
 - ・小学校の体育の指導で筋力アップのトレーニングを実施
 - ・中学校体育科の教員が小学校高学年の体育授業で専門的な指導の実施
 - ・筋力をアップさせるための、食育について食育担当がPRや指導を実施
- 中学校での給食開始を踏まえた食物アレルギーに関する情報交換の実施



中学校の教員が小学校に定期的に出向き小学生に指導する中で、中学校での学習のルールや挨拶などの学習規律も教えている。
また、児童が中学校に入学した際に見知った先生がいることの安心感や生活する際の約束事が身についていることにより、入学時のスムーズな適応が行われることになる。

【特別支援教育分野】

- 特別支援の視点からの教室環境について共通した整備を実施
- 特別支援学級の児童・生徒の交流会を実施

平成27年度の取組

【学力向上分野】

- 理科教育における学力と指導力の向上
 - ・中学校教員が年間を通して小学校6年生を対象とした授業をT1として実施
- 新入生説明会で小学校6年生に体験授業を実施



中学校で教員の持ち時間数を工夫し理科教員の定数を増やすことで、小学校に理科教員を常時派遣できる体制を作ることにより、小学校の理科を専門性のある教員が行うことを可能にした。
初年度は6年生を対象の授業を行い、2年次は小学校5年生、3年次は小学校4年生の授業を年次的に変更することで小学校教員が授業を参観しノウハウや指導法を獲得できる。

新入生説明会を土曜授業の中で開催し、小学6年生には中学校の教員が特別授業を行うことで中学校の授業がどのようなものかを体験する。
児童にとっては中学校の授業や教員に対する不安感が軽減され中学校への入学に対する意欲と期待感の向上に繋がっている。



【心の教育・生徒指導分野】

- 校区全体で「合唱」に児童生徒の繋がりを深める
 - ・小学校の学習発表会で中学校3年生が出身校に出かけ小学校の児童と校区の歌を合唱
 - ・中学校新入生説明会で、小学校6年生と中学校2年生と一緒に校区の歌を合唱
- 「はるかのはまわりプロジェクト」に校区の学校が全て参加

【健康教育分野】

- 校区の子どもたちの「ボール投げ」の能力向上に向けた取組
 - ・小学校低学年から中学校までの「投げる力」における育成カリキュラムを作成
 - ・小学校での中学校体育科教員のよる指導における活動内容の充実



「はるかのはまわりプロジェクト」を校区全体で行う中で、保護者や地域の方と一緒に作業することにより、児童・生徒は地域を意識し繋がることの意味を体感することになる。あわせて、校区で設定した15年間を見通した子どもたちの育成の中心となる活動にもなっている。

中学校体育科の教員が年間に複数回小学校に出かけ、校区の子どもたち全体の課題である「投げる」という技能について専門的な指導を行っている。日頃の授業では体験できない専門的なトレーニングを行えるので児童は指導の時間を楽しみにしている。



小学校の学習発表会に中学校3年生が出身校に出かけ中学生の合唱を披露すると共に「校区の歌」を児童と一緒に全員で合唱する。中学生にとっては成長した姿を後輩や地域の人に見せることができる喜びと児童にとっては卒業後の中学生としてのあるべき姿を見て新たな目標設定ができる。

中学校の新入生説明会の際に、中学校2年生と小学校6年生で「校区の歌」を合唱する。入学時には新入生と最高学年という関係が入学前から構築できる。校区の子どもたちは「校区の歌」を全員が歌えるので、事前の練習をする必要もない。そのため、中学校の入学式では新入生と在校生と一緒に合唱することができる。



【特別支援教育分野】

- ユニバーサルデザインの実践から国語科を中心にその内容を検討
- 個別の指導計画を保護者の了解のもとに作成

平成28年度の取組

【学力向上分野】

- 理科教育における学力と指導力の向上
 - ・中学校教員が年間を通して新たに小学校5年生を対象とした授業をT1として実施
- 英語教育における学力と指導力の向上
 - ・中学校と養護学校教員が年間を通して定期的に小学校に出かけ外国語活動の授業を支援

【心の教育・生徒指導分野】

- 校区全体で募金活動を展開
- 校区の小中学校で自治について児童・生徒会サミットを開催



米子市児童生徒会サミットと連動し校区でも児童会の代表と生徒会の代表が学校づくりについて話し合いを行った。考えたことや思ったことを原稿なしに発表できるのも各学校で統一して取り組んできた成果でもある。中学生の姿勢を学んだ児童が小学校に戻り、同じような行動を取ることで他の児童への効果も見られている。

広島のと砂災害や熊本の大地震の際に募金活動を行った経験を踏まえ、中学校の生徒会は自主的に募金活動を開始した。

そして、小学校に中学生が出向き児童の代表に募金活動の協力を依頼し校区としての取組が始まった。募金後は集まった募金を手に小学生の代表が中学生に託すなど、子どもたちにも校区という意識が高まってきている。



【健康教育分野】

- 校区の子どもたちの「ボール投げ」の能力向上に向けた取組
 - ・小学校低学年から中学校までの「投げる力」における育成カリキュラムを実践に基づき見直し
 - ・小学校での中学校体育科教員による指導における新たな活動の導入

【特別支援教育分野】

- 次年度に中学校へ入学予定の特別支援学級に在籍している6年児童の使用する教科書について、中学校と小学校の担当者と協議

4 小中一貫教育の4年間のまとめ

【児童・生徒にとって】

- 中学校区共通の「学習規律」の設定や小学校での学習に中学校スタイルを導入することによって、小学生にとって中学校接続のウォーミングアップとなり、「中一ギャップ」の解消にもつながっている。
- 小学生は中学生のあるべき姿に接し、中学生になることへのあこがれを持つと共に児童会の活性化や自治能力向上の必要性を感じるようになってきた。
- 校区の歌やひまわりプロジェクト、募金活動等を通して子どもたちに地域の意識が根付き始めた。

【指導者にとって】

- 中学校教員の専門的な指導を見ることで、教材や資料の提示方法を学べたり、中学校卒業時のあるべき姿をイメージしたりすることにより、小学校教員の指導力向上や授業改善につながられている。
- 「校区連携の日」が有効に活用され、中学校区全体を見渡す視点が新たに生まれるとともに学校間の情報や取組の共有化・共通化が更に図られるようになった。
- 中学校区の課題を共有し同じように取り組む中で、小中連携や小小連携、養護学校との連携が深まり教員の指導や意識に校区内の統一感が生じてきた。
- 学校からの情報発信や小中一貫の取組を実際に見ることで、子どもたちの9年間の成長を実感できる今までにはない取組として、保護者や地域にこの取組が根付き始めている。